

満足のいく就職活動を

研究開発室
矢口 和宏

<就職活動の早期化>

近年の就職の決定時期は、就職協定の見直しや採用形態の多様化等によって以前と比べて早くなっている。そのため、就職活動はだんだん早期化する傾向にある。では、学生はいつ頃から就職活動を始めるのであろうか。

図表1は、就職希望を持つ大学3年生に対し、就職活動をいつから始めたのか（始める予定か）を尋ねた調査である。これをみると、大学3年時の11月前半が16.1%で一番多く、次に12月前半が15.1%で続いている。この調査の調査時期から考えれば、73.8%の学生は年内に就職活動を確実に始めており、今頃から活動を始めようとする学生は、もはや少数派である。

実際、定期試験の参考書と就職関係の書物を同時に持ち歩いている大学3年生（短大1年生）の姿をみるのは珍しくない。年は明けたのに、師走なみの忙しさである。

<就職活動は大変だ>

就職活動の早期化や昨今の雇用情勢の厳しさを考慮すれば、就職活動は大学生にとって大きな負担となる。だが、モラトリアム気分を打ちのめし、社会の厳しい現実を突きつけるのも就職活動である。そして、終わってしまえばそれはいい思い出にもなる。晴れて社会人となった新入社員たちは、就職活動をどう思ったのであろうか。

図表2は、就職活動がどのくらい大変だったかを尋ねた調査である。これをみると、就職活動が大変だったと答えた回答は54.7%であり（「かなり

大変だった」と「思ったより大変だった」の合計）、半数以上が就職活動は大変だったとふりかえっている。一方で、「思ったより楽だった」と回答した割合も高い（36.6%）。ただこの中には、就職活動が実際に楽だったのではなく、事前に相当な覚悟をしていたからこそ、楽と感じた人も多いと思われる。

また、「かなり楽だった」という回答は8.7%であり、このご時勢でも、およそ10人に1人は恵まれた就職活動を行っていたようだ。ただ、このような回答の割合はかなり少なくなった。10年ほど前の同調査で、1991年度の新入社員を対象にしたものでは、「かなり楽だった」という回答は35.1%もあった。経済状況と同様に、就職活動もこの10年で激変してしまった。

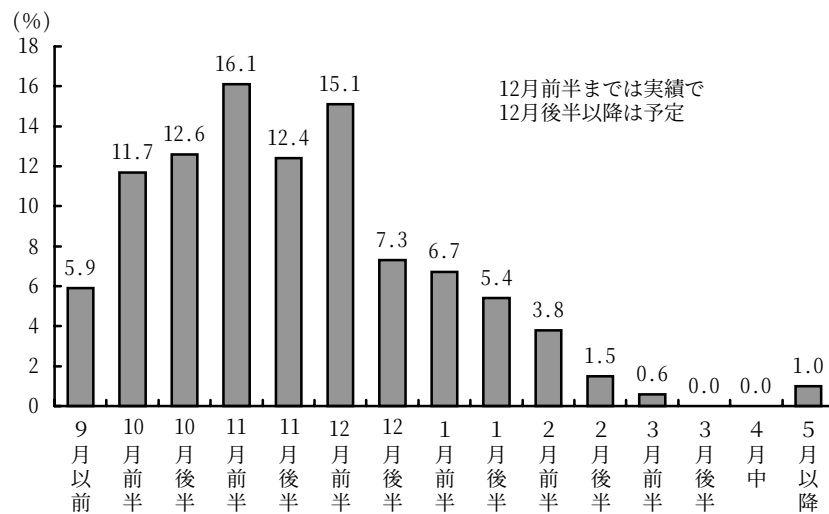
<苦あれば満足あり>

就職活動自体は大変だったが、その結果には満足しているのであろうか。就職活動の結果の満足感を尋ねた調査をみてみよう（図表3）。

これをみると、就職活動の結果に「大変満足」であるとした回答は45.5%であり、就職した人の約半数にものぼっている。また、「大変満足」と「やや満足」という回答を合わせれば、じつに86.3%が就職活動の結果に満足していることもわかる。ただ、この調査の対象は新入社員であるから、そもそも結果に不満のある人は調査対象にあまりいないかもしれないし、就職活動が大変だったからこそ満足感が高いともいえよう。

依然として雇用情勢は厳しく、既に就職する気をなくしてしまった学生も多いであろう。しかし、就職活動の結果への満足感はいくつこう高いのだから、臆することなく就職活動に取り組みたいものである。

図表1 就職活動の開始時期

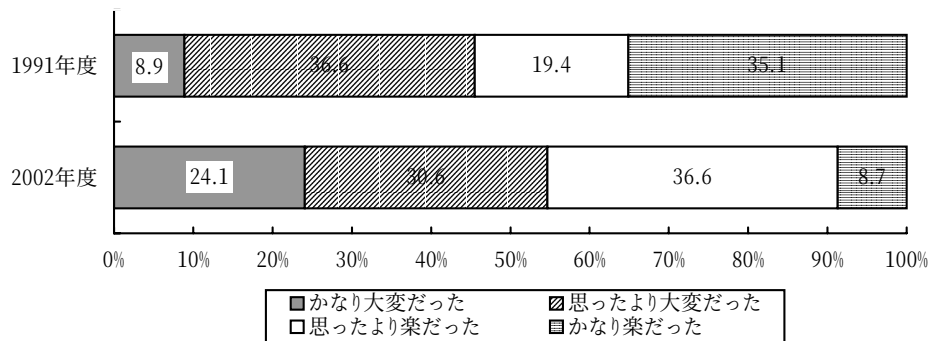


注1：図表は、全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生も含む）1,400人を調査対象とし、そのうち回答が得られた524人をもとにして作成されたものである。

注2：調査時期は2001年12月1日～10日

資料：DISCO（2002年）「2002年大学生の就職活動・意識に関する調査」

図表2 就職活動の大変さ

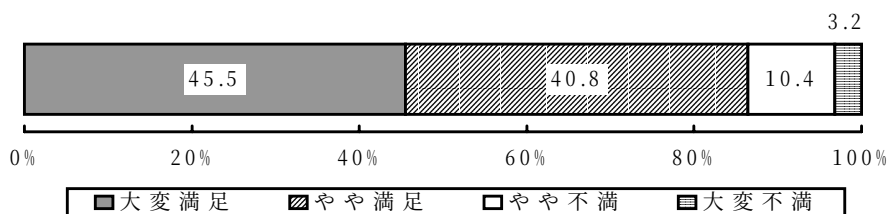


注1：調査対象は2002年度入社の新入社員402人

注2：調査時期は2002年3月～4月

資料：産業能率大学（2002年）「2002年度新入社員の会社生活意識」

図表3 就職活動の結果への満足度



注：調査対象と調査時期は図表2と同じ

資料：図表2と同じ

WATCH IN